

2022 年 9 月に実践計画を提出した時点では、所属している白井国際交流協会の日本語教室において、コーディネーターの活動をするにあたり、学習者を受け入れる側としての 体制の改善/強化の必要性を確認したので、現状の運営を整理し、 先ずは 支援者や関係者に聞き取りをする作業から始めた。

多くの中から特に、下記の①~⑤の課題の対策を講じて改善を得られた。

A. [支援者側の問題点と対策]

- (1) 業務が一人に偏っており、他の支援メンバーに周知されずに決定されていた。因って情報が無いので、運営に無関心なところもありモチベーションが低い。 [対策] ミーティングの回数を増やし、支援者の個性を尊重しながら、夫々の担当について責任を持って活動できるイベントを開催し、結果をフォローして情報を共有するようにした。 結果、参加意識が強くなり積極的な意見が聞けるようになってきた。
- ② 支援者の人材不足。
 - [対策] 市や自治体の広報の媒体や QR コードを増やしたところ、7 月に 2 人、10 月に 3 人、11 月に 1 人の支援者の応募があった。
- ③ 日本語指導能力のバラツキ。
 - [対策] 支援者の能力に応じたスキルアップ講座などの情報を交換し合う。 オンラインや実技の講習会情報がメンバーから多く寄せられる ようになり授業に役立っている。又、横の繋がりの相乗効果も 得られた。
- ④ 交流の場としての教室が、一定の場所ではなく日によって移動するので 学習者が混乱する。安心していつでも集まれる場所がない。
 - [対策] IFAS と協同して、市に対して固定された教室を貸してもらえる よう交渉を続けていたが、来年度から市役所に教室(部屋)を提供し てもらえることになった。
 - 又、今教室となっている公民館に交渉して、支援者が抱えていた 大量の教材や教本を置く書棚を確保できたので、毎回重い教本を

抱えて通勤する必要がなくなり、在庫や使用状況等の管理や棚卸もし易くなり、教本や教材の経費節約につながった。

⑤ 日本語教室に通う外国人の実態と市の理解とが一致せず、要求に対しての 緊迫度があまり伝わらずに、市からの回答がなかなか得られない。

[対策] 市の企画政策課担当者と協同して白井市在住の16歳以上の外国人へのアンケートを実施する事になり、2022年10月に草案を纏めて11月に発送するに至った。

*2023年1月現在取り纏めの最中で、結果発表は未定。 情報取得の一環として、となりの印西市で既に統計されている アンケート結果を参考にする事も考えて、印西市との繋がりを 深める必要性を感じた。

白井市のアンケート調査を待って、今後の活動を計画する。

B. [白井日本語教室での活動]

- ① 支援者の経験値を増やすチャンスをつくる。
 - a. 日本語の教え方について

先ず念頭に入れておくことは、白井国際交流協会会員である日本語教室の場合は、日本語指導資格を持っているいないにかかわらず、 先ずは[善意のボランティアの集まり]であるということです。 厳密な規則や決まったカリキュラムとは少し離れたところに位置 する。という事で、自由度が高くまたそれが A.①の半面、良い形で協力しながら柔軟に運営されるということです。

この場合、最新の入管法や教授法、評価法などを勉強するように強要 しても何も良いことは無く、自発的に各自が勉強する環境に持って いく工夫がが求められます。

その意味では、コーディネーターが支援者夫々の個性や技量を理解 し、無理のない得意分野を見つけて日本語を教えてもらう形にする ことで、支援者の活動が長く続くことに繋がると理解しています。

b.支援者同志のつながり

研修やイベント、見学会などに学習者と共に参加してもらう事で、

学習者への働きかけや、催事準備の際のノウハウ、地域の方々との やりとりをしながら、横の繋がりをもってもらう機会を更に増やして、 様々な場面で忌憚なく意見を交わせる雰囲気を作る。

c.情報収集

積極的に地域の団体や/事業担当者に声をかけ、学習者や支援者が 参加できる催事やボランティア、研修等の情報を得る。

C.[2023年のコーディネーターとしての活動]

a.印西市国際交流協会(IIFA)での活動

2022 年までは白井国際交流協会(IFAS)での活動が主だったが、IIFAでの活動も始めた。

イベントに参加することで横の繋がりができ、又 IFAS との違いや情報を得ることができて、新しい日本語教室の推進の仕方にヒントを見つけることができた。うまく両市をつなげて地域と行政に協力をしてもらえるような組織を作れればと考えている。

b.印西市国際化推進懇談会

上記の流れで、印西市で定期的に開かれる懇談会が始まっており 直接行政(市)と話し合いができるメンバーとして、国際交流協会、 在住外国人、大学教授など 15 人の委員の中に選出された。

多業種の意見交換で色々な事項の着眼点など、大変刺激のある意見 が聞けてまた、行政へ対する疑問・質問に対しては、企画政策課の 課長から丁寧な回答・説明が聞けて有意義な懇談会となった。 市に意見を投げかけて課題をクリアにして行きたい。

今後の活動に関しては、まだまだ知らない事が多いが故の不安材料もありますが、 情報集めをして確認をしながら活動に活用していきたいと思っています。 そのためにも同業種の方との繋がりを深めて行き、またアンテナを張って異業種

にも目を向けてあれこれ悩みながら又、そんな風に悩んでいる自分を面白がりな

がら活動につなげて行きたいと考えています。